

広島平和記念資料館

〔地図番号27〕

<p>開館年月日 1955（昭和30）年8月24日</p> <p>直近の改修 2017（平成29）年4月 東館改修 2019（平成31）年4月 本館改修</p>	
<p>建立者 広島市</p> <p>設計者 丹下健三、<small>たかし</small>浅田孝、<small>おおたにさちお</small>大谷幸夫、 <small>のりくに</small>木村徳国</p>	
<p>形状 東館：地上3階地下1階建 延床面積 10,098㎡ 本館：地上2階一部中3階建 延床面積 1,615㎡ ピロティー式の本館下の空間は、廃墟の中から立ち上がる人間の力強さを表わしたいという考えが込められている。</p>	
<p>特記事項</p> <p>1 広島平和記念資料館の歩み 1949（昭和24）年9月、広島市中央公民館に「原爆参考資料陳列室」が設置され、原爆被災資料の展示が始まりました。また、同年公布された「広島平和記念都市建設法」に基づき、平和記念公園の中に、1955（昭和30）年6月に平和記念館が、8月に平和記念資料館が開館しました。1994（平成6）年6月、展示・収蔵機能や平和学習の場を充実するため、平和記念館を建替え、2館を一体化した新たな「平和記念資料館」として開館し、現在に至っています。 2006（平成18）年7月5日には、平和記念資料館の本館部分が国の重要文化財に指定されました。戦後建築としては初めての重要文化財となります。</p> <p>2 東館 2017（平成29）年4月にリニューアルオープンし、「導入展示」、「核兵器の危険性」、「広島歩み」の3つの展示ゾーンのほか、被爆証言ビデオコーナーを設置しています。また、1階のフリースペースでは企画展示を行っています。</p> <p>3 本館 2019（平成31）年4月にリニューアルオープンし、「8月6日の惨状」、「放射線による被害」、「魂の叫び」、「生きる」の4つのコーナーからなる展示で、1945（昭和20）年8月6日、広島で何が起こったのかを伝えます。</p> <p>4 入館者数 2019（令和元）年度は、入館者数が1955（昭和30）年の開館以来最多の約176万人（うち外国人約52万人）となりました。</p>	